

プラタナス



令和2年10月5日(月)

市川市立市川小学校
校長 蜂須賀 久幸<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>

他人に不快感を与えることなく、自分も快適になれる「マナー」

何気なく「マナー」「エチケット」という言葉を口にしたり耳にしたりします。マナーとは、辞書をひくと、「行儀、作法」とあります。広義に表すと「思いやり」と言い換えられます。他者を意識して、いたわりや優しさの気持ちを、態度や形式に則った作法として表したものです。

マナーは生まれつき備わっているものではありません。生育環境（国・宗教・民族・時代など）の違いにより、後天的に身につくものですから、A国では良いマナーなのにB国では白い目で見られるなんてことも往々にしてあります。

このマナーには、法的拘束力はないと言えますが、皆が勝手気ままに行動をしたら迷惑を被る人がきっと現れます。つまり、マナーとは「他人に不快な思いをさせず、自分も快適に過ごすこと」、「互いが気持ちよく生活すること」といえるでしょう。現在はありませんが、給食中に大声でしゃべったり立ち歩いたりするのを注意するのは、こうした意味があるわけです。こんなふうに、子供たちの家庭や学校での行為を、「マナー」というフィルターで覗いてみたい気がします。

人はマナーを学び、磨きをかけることで、立ち居振る舞いや佇まいに気品が出ます。何よりも、正しい振る舞いは自分を内面から輝かせ、自信へと導いてくれるはずです。

以下は、食事時のマナーです。「へ～」ということもあります、変にとらわれすぎず自然に…。

■手を受け皿にして食べる■

一見上品そうですが、「私は食べ方が下手です」のアピールのようなものです。汁が落ちそうなときは、とり皿や蓋を受け皿にするとよいと言います。

■スパゲッティを食べるときにスプーンを使う■

タレントの石塚英彦さんはフォークとスプーンで上手に食べて一言、まいう～！上品な行為のようですが、「私は食べ方が下手です」と言っているような行為となってしまうそうです。

■フォークの背にライスを乗せて食べる■

外国通を語る日本人の知ったかぶりが始めたとも言います。私も父からこの食べ方を教わりましたが、正しくはフォークのへこんだ部分にライスを乗せて食べる方法です。

■箸を食器の上に置く■

この行為は、「料理をまたぐ」という失礼な意味があります。お盆があるときは、左ふちに箸先を置きます。あるいは箸袋を使って箸置きを作るとよいようです。

■食べ終わった食器を重ねる■

宿泊学習の食事で、私たち教員が子供に指導してきたことです。でも、高級料亭で使われるお椀などは高価で、重ねることで傷がつくことからマナー違反とされます。また、ファミレスや家庭でも、ほかの食器の裏に汚れがこびりつくので嫌がられるといいます。片づけやすいと思ってのことでしたが…。

■食後にナプキンをきれいにたたむ■

レストラン等で食事后にナプキンをきれいにたたむのは、「料理が美味しくなかった」ことを意味します。席の上にグチャっと丸めて置くことが「また食べに来ます」のサインです。

素朴な疑問を大切に（放送朝会より）

一日に、今年度は恒例となつた「放送朝会」がありました。直接顔を見て話すことができないため、子供たちの反応を確かめられないのが残念です。でも、耳から聞くだけより、視覚にも訴えた方が印象に残りますから、パソコン操作を担任にしてもらつて絵と文字を映して話すようになります。

今回は、NHK番組「チコちゃんに叱られる」のチコちゃんに画面上に登場してもらいました。「ボーッと生きていないで、『なぜだろう？』という疑問を大事にして、考えたり調べたり意識してほしい」と伝えました。

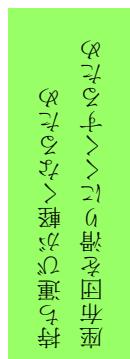
①クリアファイルの右下にある三角形の切れ目は何のため？



②旅館で見かける座椅子の下に穴が開いているのはなぜ？



③普段使っているホチキスの針。
箱の裏側を見てみると、どんなことが書いてある？



■■時程の変更を検討しています■■

新型コロナ感染症対策の一つとして、業間休みの密を防ぐため、現在の日課時程表を作成・運用していますが、実施する中でいくつかの問題点が生じています。

- (1)業間休みを2学年ずつずらしたり昼休みの校庭・体育館使用割り当てを決めたりしているが、一方で十分な運動量確保や気分転換を図るに至っていない。
- (2)校庭等を含む特別教室の割り当てが不規則になるため、時間割を固定できない。
- (3)昼休みに校内で過ごす児童が増え、室内での密やケガが心配される。

そこで、時程の見直しを始めています。その視点は次のとおりです。

- (1)1時間目から6時間目まで、授業時間帯を全学年そろえる。
- (2)これによって、時間割を固定化することで指導者も児童もリズムを作る。
- (3)20分の学習を、学力向上あるいは補充学習に効果的に利用できるようにする。
- (4)給食後の過ごし方を児童の実態に即したものにする。
- (5)休み時間の校庭使用の様子を把握し、3つの学年が同時使用しても大丈夫か判断する。
- (6)下校時刻を現在と同じに留める。

11月4日からの後期を待たずにタイミングを見て切り替える予定です。変更前には、児童を通してお知らせいたします。

《学力向上を目指して》

- ① 1~5年目の先生方の授業や生徒指導について、先輩教員が中心になって研修を行っています。ベテランも含めて授業力アップを図ることが、子供たちの学力向上につながります。9月は4名が授業研究しました。
- ② 低学年の段階から、実物や具体物を提示して実感できるようにしたり、学習問題を自分たちで作ったり、あるいは難易度の高い挑戦問題を用意したりして、知的好奇心をくすぐる工夫などします。